

あたって ご挨拶



東通村長 越 善 靖 夫

新年、明けましておめでとうございます。

平成二十四年の新春にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。村民の皆様には、平素から村政の各般にわたり格別のご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、三月十一日、千年に一度とも言われる東北地方太平洋沖大地震、そして、それに伴う大津波は多くの死者・行方不明者を出し、未曾有の大災害となりました。我が村においては、津波により、漁船の転覆、漁具倉庫などの浸水、自家用車が流失するなどの被害が発生しましたが、幸いにも人の被害、人家の被害は無く、ひとまず安堵致しました。

いずれにしても、この大災害により、多くの方々が未だに不慣れな避難所生活を送られているところもあり、今回の大震災は日本社会全体に大きな打撃を与えたものと思っております。災害に見舞われました方々に対して、改めて心よりお見舞い申し上げます。

更には、この地震による大津波は、福島第一原子力発電所の事故の引き金となり、これによる放射性物質放出は、日本のみならず世界的にも大きなショックを与えました。また、福島県を中心に関東を含む東北地方全体に、様々な風評被害がありました。

このことは、原子力発電所との共生により、各種の振興対策を着実に実施してきた我が村にも大きな影響を与えております。東通原子力発電所東北電力一号機はこれまで安定した運転を続けて参りました。定期点検中でありましたが、今回の事故による安全性の総合評価が義務づけられ、未だに運転を開始しておりません。事業者に対しては、引き続き安全には細心の注意をもって頂きたいとは存じますが、一日も早い運転再開を願っております。

ところで、東京電力一号機は、国による安全審査のため本体着工が先延ばしされておりましたが、国の許可もされ、いよいよ本格的な工事が始まるうとしたところに今回の事故が発生し、本格工事の開始は見送られたままであります。将来に希望を抱く村民の皆様の強

い期待を受け、原子力発電所との共生を図りながら、単独での行政運営を進め、更なる発展に向け、各種基盤整備を進めている我が村としては、極めて厳しい行財政環境が続いている中においては、このままの状態が続くことは大いに憂慮すべき状態だと言っても過言ではありません。

国に対して、原子力政策全般の方針を一日も早く定め、将来に亘る原子力発電所の位置づけを明確にして頂くことを、強く要請して参りたいと存じます。

ところで、町村は過疎化、少子高齢化という状況下、依然として回復の兆しのない経済不況により、失業率の上昇、地域産業の衰退や税収の減少など、非常に厳しい状況が続いております。三月の大震災はこうした状況に追い打ちをかけました。風評被害は観光客の激減を招くなど経済状況は益々厳しくなっております。

こうした中、我が村の第一次産業は、農業は、六月初旬の一時的低温により、水稲の作柄が心配されましたが、その後は天候に恵まれ、また、直接的に台風などの襲来もなく、作況指数一〇三となり、野菜なども順調な生育となり、概ね良好な結果となりました。

畜産業は、福島での原子力発電所事故による影響から、枝肉価格が急落し、一時的に子牛価格も下がりましたが、現在は高めで推移しております。

漁業においては、主力のサケ漁、

イカ漁ともに平年並みとなり、昨年から気温が異常に高かったため、海水温が高く、ホタテの漁獲が激減しましたが、昆布は大豊漁となりました。

しかし、第一次産業は、長引く景気低迷と共に、農業においては、関税撤廃・TPP協議に日本も参加を表明したことにより、戸別所得保障政策と共に、村の基幹産業にも大きな影響を与えかねなく、皆様にとっては一層不安な年を迎えられたものと存じております。

村としては、第一次産業の振興発展のため、北地区の製氷貯氷施設の運用開始、村産品の販売促進を目指している、産地直接販売施設の運用を開始いたします。四月には「保育園ひがしどおり」の開園も予定しており、職員を中心地における定住人口増加とともに、観光客も対象とした農林水産物の販売促進に繋がるよう期待しております。

当面、東通原子力発電所東京電力一号機の運転が開始されるまでの間、非常に厳しい行財政状況は続きますが、村民生活向上のために、職員一丸となり、皆様のご理解を賜りながら、様々な課題に対処して参りたいと考えておりますので、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様のご多幸を心より祈念申し上げます。新年に当たってのご挨拶と致します。